

弁華別協働の森の会 「当別町」



里山整備に3つの地元グループが結集

名前に「協働」とあるように、私たちは、当別森林ボランティア「シラカンバ」、株式会社キョウドウと石狩北部森林組合の有志が結成した「キョウドウ」、「NPO法人新山川草木を育てる集い」、この3つのボランティアグループの寄り合い所帯です。

キョウドウが所有する当別町弁華別(べんけべつ)地区の約40haの森林を「弁華別協働の森」と名付け、森の再生に取り組んでいます。標高30m~120mの典型的な里山林で、中央部にトマツの造林地があり、その周りに土取場(どとりば)の跡地や、土堰堤(どえんてい)を盛って造られた古い貯水池、開拓農家の離農跡地などがあります。このうち約6haのエリアが私たちの活動場所です。

弁華別は、多い年には積雪が3mにもなる豪雪地です。いろいろな技術を試して雪深い地方での森づくりをやりたい、またそうしてつくった森を環境教育やリクリエーションのフィールドとして活用したい、当別川下流域にあたるこの地方の景観保全にも寄与したい——そんな希望を抱いています。

実際の作業は、毎月第1日曜日に現地に集まって、仕事は各グループが分担、終わったら解散、というパターンですが、毎回同じことの繰り返しだとせっかく3つのグループが集まった甲斐がありません。活動内容や将来目標などについてお互いに議論ができたらと、調査・懇談会・学習会なども計画に盛り込んで、実施してきました。

森づくり情報の共有化を図る

林内の作業道設置などの工事はすでに完了しており、この3年間は自前の苗木の生産や、離農跡地や土取場跡地への苗木の植栽に取り組みました。

山引(やまびき)苗を育てているほか、2017年度は、山で採集してきたオニグルミ・クリ・ミズナラ・キタコブシ・ハウチワカエデなどの播種も試みました。キタコブシは春に真っ白な花を咲かせ、カエデは秋に真っ赤に染まります。いつかきっと当別の里山をきれいに彩ってくれると夢を描いています。

ここでは、天然更新を中心に森の再生を進めたいと考えています。離農跡地では地拵え(じごしらえ)の後に穴を掘って苗木を植栽し、下草刈りも手鎌を入れた後にブラッシュカッターで仕上げるなど、ていね

いな作業を心がけています。積雪地でどのように植栽したり世話したりすればうまく育つのか、モニタリングサイトを設けて実験しながら進めているところです。

「協働の森」でこれまで2度開いたキノコ学習会・観察会では、NPO法人藻岩山きのこ観察会(札幌)の中田洋子理事長に講師を務めてもらいました。1時間半ほどの散策で40種ものキノコが見つかり、参加者からもたくさん質問が出て、とても盛り上がりました。

森にはミズナやタケノコ(チシマザサ)などの山菜も豊富ですので、会員にアンケートをとって、分布情報などを集めているところです。情報を整理してリストをつくり、会員同士で共有して山菜資源の持続的な利用を図ろうと考えています。

経験者が集まっていますので、山の仕事は順調に進んでいますが、「懇談会を開いてじっくり将来の話をしよう」と言ってもなかなか盛り上がりせず、コミュニケーションを深めるには、もうちょっと時間がかかるような気がしています。

自由に意見交換するためには、メンバー同士がまず森づくりの基礎知識や情報を共有していないと始まらないかも知れません。さいわい私たちのグループは人材が多彩です。外部講師に頼るばかりではなく、たとえば雨天で作業できない日などを利用して、一人ずつ専門分野の話題を提供してもらい、といった形で、経験や情報を学習・共有していけたらと思っています。



報告者

笹賀 一郎さん

